

更新時研修の案

2016年6月13日14:00～16:00

第14回通訳案内士制度のあり方に関する検討会
＝通訳案内士団体＝

更新時研修で実施する内容(案)

- 過去5年間での変更事項の確認及び今後予想される法的制度的変更(例:現在では、免税制度、成田の第三ターミナルや身分証チェックの廃止、都立庭園や国立博物館のガイド入場無料化、大涌谷運行の最新ルール、箱根新道無料化、ガイドも着席シートベルト着用、駅舎改装に伴う変更など)
- 訪日観光客の最近の傾向や新しい情報、人気スポット情報(フクロウカフェ、スネークカフェなど。観光業者を講師にする)
- 旅程管理添乗業務
- 救命救急講習や災害時の対応、危機管理、道路法
- 各ガイド自身が接遇体験したり報道されたりする以外の業界の情報(例:海外での日本政府やJNTO、各地方自治体やJICA、IHCSA、各団体(農業・医療・民間交流など)の活動内容)
- プロに必須なCS、マナー、ガイディングや接客の技術などのスキルアップ研修
- 各語学関係(例:当該言語の外国人で知識人の異文化交流の話)
- 日本文化・社会の各専門分野の方の講演(例:東博等の博物館、美術界、武道、鉄道・・・)
- ・全国共通と地方別があり(地方別では主要観光地の実習)
- ・ガイディングの各項目の知識(▶歴史:江戸時代の京都、金沢、欧州。▶現代生活:文化、生活、宗教、アート、ファッション、建築、政治、経済、社会生活、社会問題 ▶地理:地方の特徴魅力 ▶文化;日本の誇る文化の理解と説明)

実施方法への提案

●稼働状況(年間稼働日数)やガイド団体の普段の研修の受講状況(単位制にする)により受講免除制度などを導入(例:現役稼働中の人は5年でなく10年更新、非稼働中の人の半分の時間で良い、等。)**【理由】**稼働中の人は時間が取れない場合もあり。ペーパーの人と稼働中の人では研修内容が大きく異なる。

●研修と同時に以下を実施すれば二次的効果が期待される

- 1)各人にアンケートを取り状況を把握(稼働状況、希望する研修、抱える問題点等)
- 2)通訳案内士として稼働する意思を確認(休業希望か否か)、個人的データ(住所変更)届をする。休業者は再登録。
- 3)登録時と同様、医師の診断書を提出し精神的異常が無いことを確認
- 4)なるべく通訳案内士団体に加入することを勧める

●更新時研修受講料に、政府の支援を希望。

- 講義だけでなく、実習を伴う二本立て(中国語ガイドからは実務重視の意見。中国語受験者が少ないのは実務試験が無い為で、実務中心なら無免許ガイドの受験者増えるとのこと)。
- かつての高度観光人財育成事業のような内容を参考に。

課題やメリット

- ・メリット: 更新時研修と同時に、登録されている名簿を整備。
- ・メリット: 更新制により寝ている資格者(特に希少言語、地方在住者)が現場に呼び戻せる。稼働可能な人(言語・人数・居住地)の状況が把握できる
- 主管はどこか(JNTOさん?)
- 将来的には、日本語教師のように免許制ではないが実質的には、規定の研修を修了した又は資格を持っている人でないと殆ど採用されない制度を取るのも良い(420時間通訳案内士養成講座みたいなもの)。ランダムな一発テストをするよりも、おさえて欲しい知識・技術を時間をかけて丁寧に習得してもらおう方法もありうる。
- 研修の義務づけ＝研修に出れば更新できる、と形骸化し、時間的・金銭的な負担ばかり増えることにならないか。
- 現行の試験が実技・実務にウェイトを置いていない状態では、更新制とうまく噛み合うか。

更新時研修を実施する意義（各種意見）

- 目的をクリアに。技能は衰えるという前提で、最低限必要なレベルの技能を維持しているかの定期的な確認（ダメなら更新不可）か、それとも、当初の免許取得時よりも更に高いレベルを目指すための更新のためか。
- 更新が通訳案内士をふるいにかけるものでなく、ブラッシュアップ的なものでお金と時間をかけても次の更新時が待ち遠しくなるようなものであることを希望
- 都市と地方で異なる。地方は、現場実習中心か。